

広島大学大学院
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
第5回短期インターンシップ報告会を開催しました。

広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムでは、国立環境研究所で短期インターンシップを実施した大学院生による短期インターンシップ報告会を開催しました。

第2回フィールドワーク報告会と同時に開催された第5回短期インターンシップ報告会（平成26年9月24日開催）では、国立環境研究所で短期インターンシップを実施した大学院生による報告が行われました。報告では、福島第一原発事故後、群馬県赤城山の大沼湖に生息するワカサギの放射線含有量が、他の汚染域に生息するものに比べて低下していないことに着目し、調査の結果、大沼湖の支流の少なさに理由があるのではないかと仮説を提示しました。

また、国立環境研究所等の研究施設の役割が、周辺施設や大学、地域住民との懸け橋となることにあると述べ、実践的な研究活動の在り方を学んだことを示しました。

なお、報告会は、テレビ会議システムを通じて東広島及び霞キャンパスや連携機関に中継しました。大学院生は発表資料を英語で作成し、報告・質疑応答も英語で行いました。

